

オックスフォード大学での 研究生生活

佐藤 敦子

Department of Zoology, Evolution
and Development Research Group
University of Oxford

博士課程2年



マートンカレッジ。約800年の歴史を誇る、オックスフォード大学でも最も古いカレッジのひとつ。



ヨークにて、指導教官Peter Holland教授(写真左)と研究室のメンバーと



マートンカレッジにて、カレッジの友達と。カレッジの友達は国籍も分野もばらばらです。

私は修士課程で先端生命科学専攻にお世話になり、現在は経団連・石坂奨学生として、半索動物翼鰓類の発生・進化的研究をテーマにオックスフォード大学の博士課程に在籍しています。この春、英国・Yorkで開催されたBSDB(British Society for Developmental Biology) Spring Meetingにおいて、これまでの研究成果を発表し、ポスター最優秀賞をいただきました。

半索動物翼鰓類は、非常に小さな海産無脊椎動物ですが、系統的には脊椎動物の進化を解明する上で重要な位置にあります。日本も含め世界の多くの場所では、深海性で比較的稀な動物として知られますが、英国では約30年ほど前に比較的浅瀬で容易に採集できることが発見されました。また、私が現在所属するオックスフォード大学マートンカレッジで教授を勤めたSir Ray Lankesterをはじめとする、著名な動物学者たちの研究の蓄積も知られます。これらの利点に着目し、伝統的に記載されてきた翼鰓類での左右性の再検討、及び脊椎動物の左右性との関連を中心に研究を行っています。新領域に在籍中はもちろんのこと、留学に際していろいろとお世話いただき、東京から遠く離れた今でも温かく見守ってくださる先生方には、心よりお礼申し上げます。

オックスフォード大学は、英語圏で最も古い大学で、歴史は12世紀に遡ります。13世紀には学生の保護を目的とし、後に個人指導及び生活の場として発展したカレッジが形成され始め、現在では約40のカレッジがオックスフォード大学を形成しています。大学院生は、各研究科での研究生生活のほか、カレッジに所属しています。国籍ばかりでなく、専門分野も異なる学部生、大学院生、及び研究者が生活を共にするカレ

ジは、幅広い交流の場となっています。カレッジで知り合う学生や研究者たちは、それぞれの専門はもちろんのこと、趣味やひととの会話を愉しむことを大切にしている、という印象があります。専門分野が違って、幅広い見識で互いに相手の話に興味深く耳を傾け、話題は多岐にわたって楽しい会話は尽きません。この幅広い交流を通して、自分の専門分野についての見方も大分変わりましたし、さまざまなものに対する視野が広がったと感じています。このような社交の場は、オックスフォードを特に華やかに見せていますが、優雅に見える教授クラスの人でも、着こなされている粋なジャケットは古着だったり、意外な一面に驚かされたりもします。質素な生活で最大限学術や趣味に時間を費やしている人たちの姿も、教えられることの一つです。

毎日二回ティーブレイクの時間をとり、年に三度の職員の長期休暇を欠かさない英国のライフスタイルにより、東京では分刻みで追われていた私の実験生活も一変しました。図書館で文献を漁り、じっくりと実験の結果をまとめたり、自分の研究の先を考えたりする時間が増えました。私が経団連のご支援のおかげで独立したプロジェクトを持っているためでもありますが、指導教官との関係もずいぶん違います。アドバイスや手助けはいつでも快くいただきながら、プロジェクトの中心は自分自身です。そのため、常に自分が試されるという厳しさを感じる一方で、積極的に自分の研究をアピールする愉しさも学びました。オックスフォードでの生活は様々な面で刺激的です。たくさんの方々のおかげで貴重な経験をさせていただく機会に恵まれました。この機会を存分に生かして、さらに研究を進めていきたいと思っております。